



暮らし上手のインテリア  
Cool Interior Life

インテリアの楽しさと  
暮らしのちょっとした工夫がいっぱい！  
クリエイターの自宅やアトリエを公開

- 石澤敏子さん (案内型手芸家)
- 岡坂由美子さん (ショップオーナー)
- 広沢京子さん (フードコーディネーター)
- 堀山奈央さん (ライター・料理研究家)
- 星谷菜々さん (料理研究家)
- 岡分一幸紀さん (インテリアスタイリスト)
- 丸林裕和子さん (造形作家)
- 木下綾乃さん (イラストレーター) etc.

14 千葉聖美さん (インテリアコーディネーター)

北欧テイストで  
統一したモダンルーム



左、仕事帰りに利用しているスペースなので、ムダな装飾はナシ。あくまでも「作業しやすい」を優先。打ち合わせなどでも行うことが多いそう。上、キッチンとの間を仕切っているのは通り抜けのパーテーション。ロールの幅に合わせて移動できるでれもの。

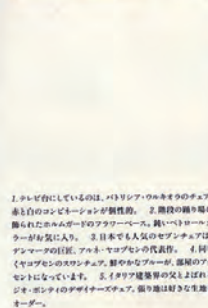
ちばきまみ  
イロコで留学中にインテリアについて学び、資格を  
取得。帰国後、ホームのインテリアコーディネーター  
をつとめる。現在はフリーとして、イロコのはまのコー  
ドや生活デザイン研究所なども活躍。  
ワード http://www.madre-style.com/

Favorite Item



インテリアコーディネーターとして各方面で活躍中の千葉さん。結婚後にイギリス留学を体験し、そのなかでインテリアについての造詣を深めました。その後もさまざまな国を訪れては暮らしの様式を学び、最終的にいちばん心惹かれたのが北欧のインテリアだったといいます。「北欧の魅力は、なんといっても自然が豊かなところ。家具に使われている素材も、天然素材のものばかり。上質な木を使っているので、使い込むほどに美しく変化していきます。いつまでも愛を持って大切に使うという姿勢を、私たちが見習わなくてはならないと思いますね。」素材についてはもちろん、デザインにおいても同様です。スκανジナビアデザインは替

換的なものが多く、デザインではなく色や素材を変えてトレンドを追求。もちろん、見た目だけではなく、座り心地など機能性が重視されています。そんなクラフトマンシップが息づいた家具をインテリアに取り入れることは、千葉さんの暮らしはもちろん、仕事の幅にも広がり持たせてくれるのだとか。「スκανジナビアデザインは、日本のインテリアに取り入れやすいと思います。イスひとつでもいろんなブランドやデザインがあるので、まずはひとつ気に入ったものを選ぶのがポイント。テーブルと合わせるときは、木目や脚の素材を揃えると違和感がありません。1脚ずつ揃えていく楽しみも、おすすめです。」



上、テレビ台にしているのは、イタリア・カネキオのチェア。赤と白のコンビネーションが個性的。2、階段の踊り場に飾られたホームデコのフラワーベース。鉄いしローテーブルが人気入り。3、日本でも人気のセグンダは、デザイナーの自伝、フット・ヤングの代表作。4、同じくセグンダのソファ。壁や床のアクセント。5、部屋のアクセントにしています。6、イロコ建築界の父とよばれるジョーゼンティのデザインチェア。個性的なデザインと機能性を兼ね備えています。

Interior Point



1、フィランドのアートスト。カネキオのグループ製品が揃ったアラビア風のバザール。打ち合わせをするときなどに登場するトップメニューです。2、北欧のデザイナー、エイミー・バスターのフラワーベースは、1950年代のデザイン。3、ホームデコの1950年代のデザイナー、グレン・グレンの作品。4、北欧のデザイナー、カネキオの作品。5、北欧のデザイナー、カネキオの作品。6、北欧のデザイナー、カネキオの作品。

